



Established in 1992

JCPF会報

Japanese Cleft Palate Foundation
 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局
 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11
 愛知学院大学歯学部内
 TEL: 052(757)4312 FAX: 052(757)4465
 振込口座: 郵便局 00850-1-109941
 三菱東京UFJ銀行覚王山支店 普通 1045666
<http://jcpf.agu.jp> E-mail: jcpf@jcpf.or.jp

Vol. 25, No. 1
 (平成28年6月20日発行)

81

ボランティア・在宅ボランティア大募集

出産直後の口唇口蓋裂児のお母さんへの哺乳指導(看護師・助産師のかた)
 貴金属リサイクルなどのポスター掲示、募金箱設置、寄附機能付き自販機設置など、
 その他各種の事務業務、ご在宅での事務ボランティアも歓迎します



私どもは平成4年の設立以来、東南アジアやアフリカを中心として20カ国以上の国々で海外医療ボランティアを実施しています。加えて、哺乳瓶配布、講演、ホットラインなどの母子保護の活動を国内外で精力的に行っています。それらの活動は、政府や民間団体などからの助成と善意のご寄附により支えられているとともに、数多くのボランティアスタッフにより支えられています。

私どもの活動に賛同され、口唇口蓋裂児のお母さんへの哺乳指導(看護師・助産師のかた)、貴金属リサイクルなどのポスター掲示、募金箱設置、寄附機能付き自販機設置、また、その他事務業務の可能のかたは、是非、下記まで御連絡下さい。

宜しく御願ひ申し上げます。

連絡先
 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
 事務局
 Email: jcpf@jcpf.or.jp
 Tel: 052-757-4312
 Fax: 052-757-4465
 募金箱を設置して頂ける病医院、お店なども
 宜しければ御紹介下さい





Q & A コーナー

質問：40歳になります。口唇口蓋裂の矯正治療を途中でやめてしまいました。今から矯正治療を受けられるか、また10代にくらべてリスクがあるか教えてください。

お答え：九州大学病院 光安 岳志 先生

一般に矯正治療は成長・発育期に行うのがよいとされていますが、近年では中高年の方々の矯正治療も行われています。何歳になったから出来ないという年齢はありません。何歳でも歯の移動は可能です。しかし、成長発育が終了した後の年齢では、歯を慎重に移動する必要があるために治療期間が長くなることが多いようです。

中高年になるとむし歯や歯周病に罹患していることも多く、治療の制約が出てくることもあります。特に歯茎や歯を支えている骨が健康であることが歯を移動させるためには必要な条件となります。歯周病に罹患したまま歯の移動を行うと、歯茎の位置が下がり、重症な場合は歯を失うリスクが高まりますので、歯周病の治療を終えてから矯正治療を行うことが必要です。そして矯正治療を開始した後は口腔内に矯正装置が装着された状態になりますので、歯周病や虫歯予防に対する日々のブラッシングがさらに大切になります。

歯周病やむし歯の治療が必要な場合、その治療を行う歯科医との連携が必要になります。また、例えば骨粗しょう症などの治療をされている方ですと歯の移動が遅くなりますし、治療中の病気があれば医科の先生との連携が必要になります。口腔内の状態や全身状態によっては矯正治療への影響を考慮しなければならないことがありますので、担当の矯正専門医と相談の上で治療をすすめてください。

さらに、矯正治療中断時の進行具合にもよりますが、顎裂（歯ぐきの裂）がある場合はその部分に歯を移動するために骨を作る手術が必要なことがあります。まずは、矯正専門医を受診して頂き、検査を受けて頂き、現在の状態を確認して治療方針について説明をお聞きになることをお勧めします。必要に応じて手術を併用することがあります。歯をどれだけ大きく動かす必要があるのかなど、個々の状況は様々ですので、矯正専門医とよくご相談ください。

治療の費用に関しては一般的な矯正治療と異なり、口唇口蓋裂では健康保険が適用されます。また身体障害者手帳を交付されている方は、自立支援医療（更生医療）の支給を受けることが可能です。申請については担当医にご相談ください。

【参考文献】

1. 中高年者（40歳以上）に活かされる矯正歯科治療—その問題点と可能性—、亀井照明ら、日本臨床矯正歯科医会雑誌 Vol. 17 (2)、16-24
2. Loss of root length and crestal bone height during treatment in adolescent and adult orthodontic patients. Harris EF1, Baker WC. (Am J Orthod Dentofacial Orthop. 1990 Nov; 98(5): 463-9)
3. Oral health-related quality of life changes in standard, cleft, and surgery patients after orthodontic treatment. Joseph S. Antoun *et al.* Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2015 Oct; 148(4): 568-75
4. 公益法人 日本矯正歯科学会HP <http://www.jos.gr.jp/roster/>



Q & A コーナー

質問：一思春期の女性患者に接して一 16歳の両側口唇口蓋裂の娘がいます。思春期になりいろいろ思いがあるようです。どのように接すればよろしいでしょうか。

お答え：九州大学病院 松村 香織 先生

口唇裂口蓋裂は形態的問題、機能的問題、あるいはその両者をあわせもち、出生直後から成人まで長期にわたり治療が必要な疾患です。思春期にある口唇裂口蓋裂患者さんは、長期間にわたる治療過程の半分以上を経験し、治療の最終段階を迎える時期に位置しています。また、思春期というのは11～18歳頃まで続く、第二次性徴をきっかけとして始まる心身ともに不安定な時期のことを指します。

過去に思春期の口唇裂口蓋裂患者に対して行われた調査¹⁾において、口唇裂口蓋裂の患者さんが経験しているストレスとして、「受診のために学校を欠席すること」「歯科矯正をしていること」「手術後の制限があること」などの【治療に伴うストレス】、「他者から関心をもたれること」「評価懸念があること」よりなる【他者からわかる疾患をもつストレス】があるとされています。また、口唇裂口蓋裂の患者さんにおいては、形態的問題および機能的問題が存在することがあります。形態的問題とは術後の審美性であり、これはパーソナリティや人間関係に影響します。また、機能的問題は主に口蓋裂患者における言語障害であり、これはコミュニケーションに影響します¹⁾。これらの形態的、機能的問題が前述のストレスを更に増強させる要因になることも考えられます。

まずはご家庭で娘さんと対話の機会を十分にとっていただき、日常的に接しているご家族から、気になっていることや困っていることがないか、何らかのストレスを感じていないかなど確認していただき、医療スタッフにお聞かせいただければ一緒に解決方法を検討させていただけると思います。また、形態的および機能的問題に関しましては、本人、ご両親、医療スタッフで確認を行い、審美性に問題があれば必要に応じてリハビリメイクなど非侵襲的な手法による対応や形態修正の手術、言語障害に対しては言語聴覚士による言語訓練や発音補助装置の使用、二次口蓋形成術の施行などを検討いたします。

文頭にも記しましたとおり、口唇裂口蓋裂の治療は長期にわたり、多くの職種のスタッフが治療にかかわります。気になった点やご不明な点があればいつでもご相談ください。ともに成長を見守っていく立場として、患者さんご本人とご家族、医療スタッフ間で良い関係が築けるよう、こちらも最大限努力してまいります。

【参考文献】

1. 思春期の口唇口蓋裂患者が経験しているストレスとその対処方法
東 奈美、新田 紀枝 他 小児看護 33 (3) 406-412, 2010
2. アンケートによる思春期口唇裂口蓋裂患者の心理
三浦 真弓 日口蓋誌 20 159-171, 1995



総会・活動報告会開催

平成28年度特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会 活動報告会が5月17日(火)に中部電力東桜会館で開催されました。今回の報告会には、当協会の医療援助活動にも大変関わりが深いエチオピア連邦民主共和国のチャム・ウガラ・ウリヤトウ駐日特命全権大使が令夫人とご出席くださいました。チャム大使は、4月に着任されたばかりで、着任後初めての名古屋訪問となり、川口文夫理事長はじめ当協会のこれまでの同国への活動に謝辞を述べられました。



チャム・ウガラ・ウリヤトウ
駐日特命全権大使

平成27年度 事業報告

国内事業

- (ア) 交流啓発事業
 - ・大学や専門学校の学生に協会の活動を紹介
- (イ) 口唇口蓋裂児・発声予防や治療法理解のための事業
 - ・ホームページや講演会による情報提供
 - ・寄附講座での講演会
- (ウ) 親の会への援助
 - ・「口唇口蓋裂を考える会(たんぽぽ会)」の親睦会で患者家族の抱える悩みなどにアドバイスを行った。
 - ・また例年の夏期の親睦会に加え、冬期には愛知学院大学歯学部附属病院内で親睦会を開催し、専門的な悩みや相談にお応えした。
- (エ) 悩みの相談事業
 - ・今年度は5件の相談があった。
 - ・医療・手術・治療に関する悩み 1件
 - ・病院紹介 1件
 - ・遺伝・結婚に関する悩み 1件
 - ・育児・授乳・離乳食に関する悩み 2件
- (オ) 会報発行事業
 - ・年4回発行し、活動の情報提供をした。
- (カ) 書籍、ビデオによる啓発事業
 - ・1唇口蓋裂理解のため、本やDVDの提供を実施した。
- (キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
 - ・米国在住の患者家族へ言語発達指導、訓練を行い、モンゴル国内ならびに日本との言語指導を行った。
 - ・ベトナム国内ならびに日本との言語指導を行った。
- (ク) 認定NPO法人としての事業

海外事業

- (ア) 医療診療事業
 - ①インドネシア共和国
 - ②モンゴル国
 - ③ミャンマー連邦共和国
 - ④バングラデシュ人民共和国
 - ⑤ベトナム社会主義共和国
 - ⑥エチオピア連邦民主共和国
 - ⑦ラオス人民民主共和国
 - ⑧カンボジア王国
 - ・専門家を派遣し、無償診療や無償手術、学術交流等を行った。
- (イ) 人材育成事業
 - ・台湾人1名、ベトナム人1名、エチオピア人1名、モンゴル人2名の受け入れ

- (ウ) 医療物資支援事業
 - ・各診療所(インドネシア、モンゴル、ベトナム、ラオス、エチオピア)や専門家(バングラデシュ、ミャンマー)が、必要な機材・薬剤を日本から持参し、現地医療施設へ寄贈した。
- (エ) 海外のNGOとの情報交流
 - ・第5回国際口唇口蓋裂協会総会(CLEFT2015)が開催され、運営に協力した。
- (オ) 自立支援事業
 - ・ベトナム国への自立資金貸し付け
- (カ) 英文会報の発行
- (キ) 国際口唇口蓋裂協会事務局
 - ・CLEFT2016に関する情報提供
 - ・CLEFT2015の業務補助

環境保全事業

- (ア) 貴金属リサイクル事業
 - ・全422の歯科医師会後援事業として、歯科医院や大学病院、一般の方々から頂いた金歯、銀歯、撤去冠などの貴金属をリサイクルし、活動資金に利用
 - ・過去の協力歯科医院や医療施設への本事業の再周知と協力再依頼
- (イ) 携帯電話リサイクル事業

会員ならびに収益の増加のための事業

- ・新聞、雑誌等への活動掲載により協会活動をPR
- ・法人企業へのプレゼンテーションを行い、募金機能付自動販売機の設置に向けた活動を行った
- ・ALSOKと協賛し、セキュリティシステム契約の一部寄附をする事業では、案内を交付し会員の先生方へ契約を促したが、本年度は成約には至らなかった。
- ・積極的に新規会員への入会を促進し、本年度は2社の賛助法人会員の増加に結びついた。
- ・募金箱を6か所に設置した。
- その他
 - ・第一モスクワ国立医科大学の国際担当代表サダコバヤ氏(Dr. Olga SADKOVA)が来名し、上記大学で開催した国際口唇口蓋裂会議の打合せを夏目長門常務理事と行った。
 - ・マラウイ共和国より医療支援の要請を受け、当協会の夏目常務理事がルーベン・シングウェンヤ駐日特命全権大使と初めて面談。当協会とマラウイ国との医療協力ならびに経済交流の可能性について話し合った。将来的には、安全性を考慮しながら医療協力を行うことで合意した。

- ・ドアン・スアン・ファン駐日ベトナム大使離任式典に常務理事夏目長門が出席した。
- ・ベトナム航空のCEOであるファン・ブクミン(Pham Ngoc Minh)氏が名古屋を訪問され、当協会役員と面談を行った。
- ・2015年7月に着任されたグエン・クオック・クオン駐日特命全権大使が初来名され、歓迎昼食会を実施。これまでの交流の感謝の意とさらなる交流の約束を賜った。
- ・ソドブジャムツ・フレルバートル(H.E. Mr. Sodovjams Khurelbaatar)大使の来名に際し、平成28年2月12日に日本歯学情報機構と開催したモンゴル・愛知ビジネスセミナーなどの計画を相談した。
- ・外交関係樹立60周年を記念して、ケントリ・ノアンタシララオス人民民主共和国駐日特命全権大使を招聘。在名古屋ラオス人民民主共和国名誉領事館及びラオス研究所を設けている愛知学院大学にて記念講演会を開催した。
- ・次期在ラオス日本国大使の引原毅園(現日本国大使)が来名され、小出忠孝名誉領事ならびに引田弘道ラオス研究所長、当協会の夏目常務理事を表敬訪問された。
- ・在名古屋エチオピア名誉領事館のサポート事業であるアジアペバ科学技術大学教員派遣プロジェクトの第1回日会議をエチオピア駐日大使出席のもと、東京の駐日エチオピア大使館で行い教育副大臣や科学技術担当部長などが来日され、名誉領事館事務局を務める当協会より夏目長門常務理事が代表して出席した。
- ・マルコス駐日エチオピア大使が来名され、第2回エチオピア・アジアペバ科学技術大学プロジェクト会議を開催した。
- ・アルケベ・オクバイ・メテック大臣兼首相特別顧問が来名し、当協会が事務局をしている名誉領事館主催の歓迎昼食会を開催した。愛知県を代表する企業の方々の代表が出席をし、エチオピア国と愛知県との経済交流について意見交換を行った。
- ・在京大使館へ夏目常務理事が訪問、マヌード・モメン駐日大使と面談。長年にわたる医療協力を称えて頂き感謝状を授けられた。
- ・モンゴル国厚生省の依頼で、日本医学歯学情報機構と協力して約20名の医療団を招聘。専門家が最先端の技術を学ぶことを目的に名古屋大学歯学部附属病院など愛知県内の病院で2週間に及ぶ研修を行った。
- ・愛知学院大学名城公園キャンパスにて、モンゴル愛知ビジネスセミナーが開催され、駐日モンゴル国大使館、在名古屋モンゴル名誉領事館及び愛知学院大学経済学部が主催し、当協会は後援として参加した。両国合わせて100名以上参加し、当団体は、日本の良質な薬剤をモンゴルの病院で使用できるように協力することになった。

平成28年度 事業計画

国内事業

- (ア) 交流啓発事業
 - ① 口唇口蓋裂児・発声予防のための事業
 - ② 患者、家族ならびに親の会への支援
- (イ) 悩みの相談室
- (オ) 会報の発行
- (カ) 書籍・DVDによる啓発事業
- (キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
- (ク) 認定NPO法人としての業務
- (ケ) 国内プロジェクト企画・調査・会議事業

海外事業

- (ア) 医療診療事業
 - ①ベトナム社会主義共和国
 - ②モンゴル国

- ③インドネシア共和国
- ④ミャンマー連邦共和国
- ⑤ラオス人民民主共和国
- ⑥バングラデシュ人民共和国
- ⑦エチオピア連邦民主共和国
- ⑧カンボジア王国
- ⑨その他
- (イ) 人材育成事業
- (ウ) 医療物資支援
- (エ) 海外のNGOとの情報交流
- (オ) 自立支援事業
- (カ) 支部活動
- (キ) 口唇口蓋裂等の治療可能な胎児の命を守るための事業
- (ク) 英文会報の発行・HPへの掲載
- (ケ) 国際口唇口蓋裂協会事務局

- (コ) 海外プロジェクト企画・調査・会議事業
- (サ) 河合 幹 記念事業

環境保全事業

- (ア) 貴金属リサイクル事業
- (イ) 携帯電話リサイクル事業

会員・収入の増加のための事業

- 事業実施のための寄附・啓発活動
 - (ア) 寄附型自動販売機の設置事業
 - (イ) 募金箱の設置事業
 - (ウ) 手術費の募金事業

平成27年度決算・平成28年度予算

科 目	平成27年度決算額	平成28年度予算額	科 目	平成27年度決算額	平成28年度予算額
I. 収入の部			II. 支出の部		
会費収入	8,120,892	9,850,000	事業費(1)人件費	9,529,378	10,000,000
財団等補助金	25,753,135	18,000,000	(2)その他経費	53,100,965	30,585,000
寄付金収入	30,103,720	22,600,000	管理費(1)人件費	4,827,730	7,460,000
雑収入	12,045,831	4,103,000	(2)その他経費	6,651,847	7,583,501
当期収入合計	76,023,578	54,553,000	当期支出合計(B)	74,109,920	55,628,501
前期繰越正味財産額	19,004,203	19,004,203	事務所移転費用(C)	1,881,968	
収入合計(A)	95,027,781	73,557,203	次期繰越収支差額(A)-(B)-(C)	19,035,893	17,928,702

海外医療援助

エチオピア連邦民主共和国 平成28年2月20日～2月27日

「口唇口蓋裂に関する学術調査、科学研究費補助金基盤研究(A)海外学術調査「エチオピア先天異常児の実態調査—いわゆる「まびき」撲滅を目指して—」(研究代表者:古川博雄)ならびに科学研究費補助金基盤研究(A)「口腔先天異常疾患関連遺伝子解析研究—遺伝子バンキングシステムの拠点形成—」(研究代表者:夏目長門)での訪問時に、アジスアベバ大学歯学部にて、当協会の夏目常務理事が口唇口蓋裂に関する講演を行いました。

また、科学技術省での会議や鈴木量博在エチオピア日本国大使や外務省のMr. Genete Teshome 大洋州局長と面談をし、当協会のエチオピアでの多岐にわたる活動に高い評価を賜りました。



アジスアベバ大学歯学部での講演の様子



や日本から持参した薬などの説明を、また実際の手術では縫合糸の種類や使い方などを現地Drへ説明しながらの実施となった。特に、瘢痕や変形の強い症例は現地Drにとっては難症例であり、野口教授の手術を大勢のDrがビデオや写真撮影しながら見学していた。また数例は、麻酔科・积水先生により全身状態がよくなく全身麻酔は危険だと判断され、手術が延期された。こういった細やかな診断も麻酔科Drらとしては参考になったようであった。6月2日に前日までの手術患者の処置を実施し、その後マカッサルへ移動した。6月3日にはDr.Ruslinらの迎えでHasanuddin大学附属病院を訪問した。Hasanuddin大学は富山大学と国際交流提携を行っており、我々もこれまでに歯学部や医学部附属病院など度々訪れているが、今回は新しく建設された附属病院中央手術室の見学に続いて、病院副理事への表敬訪問を行った。手術室では、実際にDr.Ruslinが執刀する口腔外科手術2例(下顎骨腫瘍、下顎骨骨折)に我々の看護師と口腔外科医が助手として参加し、手術が行われた。手術室は大変広く設備も整っており、使用する手術器材も我々が普段使用しているものと同じであったことは驚きであった。しかし麻酔を研修医のみで実施しており挿管までに2時間近くかかるなど、教育システムには問題がある印象であった。その後Hasanuddin大学歯学部学生を対象として、野口教授の講演("Oral Cancer")ののち、申請者も講演を行った("Preoperative Treatment for Cleft Lip and Palate Patients")。日本での治療や教育に興味をもった学生や、歯学部勤務する歯科医師らとも記念撮影をしたり交流を深めることができた。6月4日にはマカッサルからバンドンへ移動、6月5日は日曜日にも関わらず、Padjaran大学歯学部構内にあるCleft Centerにて、同大学・口腔外科Dr.yuastutiやYPPCBL(インドネシア口唇口蓋裂協会)事務担当のYuliMartiniさんらが集まってくれ、今後の我々の医療援助活動予定などについて意見交換を行った。さらに、長年野口教授のインドネシア活動に協力してくれている現地日本人・扶美子さんも駆けつけてくれ、皆でこれまでの思い出などを語り合う機会となった。全日程は10日間程度であったが、3か所を訪問することで移動に時間と体力を使ったが、各都市で多くの現地Drらと交流することができ、有意義な活動であった。今後はこういった経験を臨床や、教育の現場で生かしていきたい。



ハサスディン大学歯学部で講演後に学生と



バンドンのクレフトセンターでイダ先生たちと

参加者:

- 【口腔外科医】
- 野口 誠 富山大学附属病院 顎口腔外科・特殊歯科
- 辻 司 函館中央病院 歯科口腔外科
- 仲間 鏡嗣 沖縄県立南部医療センター
- こども医療センター 歯科口腔外科
- 藤原久美子 富山大学附属病院 顎口腔外科・特殊歯科
- 【麻酔科医】
- 积水 清志 富山大学 麻酔科
- 池田紗希代 富山市民病院 麻酔科
- 【看護師】
- 藤井さやか 富山大学附属病院 看護部
- 塚田 香織 富山大学附属病院 看護部

エチオピア連邦民主共和国学術調査

平成28年2月20日～28日

日本学術振興会より資金を得て研究を行っている平成27年度科学研究費補助金基盤研究(A)海外学術調査「エチオピア先天異常児の実態調査—いわゆる「まびき」撲滅を目指して—」(研究代表者:古川博雄)において、本年もブラジラGARBETH HOSPITALにおいて学術調査を行いました。GARBETH HOSPITALでは、サンプルの採取および無償手術9例を行いました。GARBETH HOSPITALは今回で4回(1)の訪問であり、エチオピア人医師への技術移転も進み、手術を一掃に行いました。



参加者:

- 西原 一秀 (琉球大学)
- 古波藏大祐 (琉球大学)
- 岐部 俊郎 (鹿児島大学)
- 高橋 直樹 (千葉県がんセンター)
- 余詠 久則 (豊見城病院) ※自費参加

【科学研究費による学術調査参加者】

- 夏目 長門*1 愛知学院大学教授
- 古川 博雄*1 愛知学院大学教授
- 速水 佳世*1 日本口唇口蓋裂協会
- バーバリッチ・サード 優子*2 通訳

【参加期間】

- *1 平成27年2月20日～2月27日
- *2 平成27年2月19日～2月28日

インドネシア共和国

平成28年5月29日～6月7日

(第21次インドネシア医療援助事業活動)

まず最初の目的地である中央スラウェシ州バルでは、口唇口蓋裂患者への医療技術支援を主体とした医療援助活動を実施した。バルの市街地にあるUNDATA病院は病床300程度程度の総合病院であり、中央スラウェシ州の拠点病院といえる。同院口腔外科のDr.Gazaliが中心となり、未手術の口唇口蓋裂患者や、手術は行っているものの変形や瘢痕が強い2次症例など年齢や症例もさまざまな患者が集められていた。われわれ日本からのチームの他に、マカッサルのHasanuddin大学から口腔外科・准教授Dr.Ruslinと数名の麻酔科医、口腔外科医、そして同大学に短期留学中のオランダ人口腔外科医らとともに手術活動を行った。5月30日夕刻にバルに到着したのち、病院での器材準備、翌5月31日から手術活動を行った。われわれ日本チームとしては5月31日には計12名、6月1日は2名の患者の手術を行い、いずれも大きなトラブルなく終了することができた。病院の看護師には器材の使い方



野口教授の手術を熱心に見学する現地医師たち



バルで手術活動後に現地の看護師たちと

2016年度 ベトナム社会主義共和国口唇口蓋裂診療隊派遣事業 ボランティア参加募集!

海外での口唇口蓋裂診療、手術などの医療援助活動にボランティア参加してみませんか。
ベトナム社会主義共和国ベンチュエ省への医療援助の参加希望者を募集しております。

派遣期間: 2016年12月23日(金・祝)～28日(水) 6日間
または 2016年12月23日(金・祝)～31日(土) 9日間

事業内容: ベトナム社会主義共和国ベンチュエ省
口唇口蓋裂等の先天的な口の病気の患者様の診察や手術に
介助医やボランティアとして参加して医療援助の実際を
体験していただきます。見学参加も可能です。
※事業内容変更の可能性がございます。
※希望者には、ボランティア体験証明書、医療職の方には
感謝状をさしあげます

締め切り: 2016年9月16日(金)

対象: 医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、研修医、
高校・大学・大学院生
※全身的な疾患等が無く診療隊の参加に支障の無い方
必要費用: 25万円(6日間)、または 28万円(9日間)
※航空運賃、宿泊費、食事代、ベトナム国内移動費含む
(但し、日本国内の空港までの交通費は含みません)

詳しい資料などの請求先: info7@jcpf.or.jp (担当: 吉田)

モンゴル国での口唇口蓋裂の医療支援活動について

獨協医科大学医学部口腔外科学講座 主任教授 川又 均

何度もモンゴル国に医療支援で来ていますが、今年はこれまでにない緊張感と、同時に期待に胸が膨らむ思いを持っての出発でした。今回からモンゴル国における国際医療支援活動の隊長としての参加だったからです。

当教室では、日本口唇口蓋裂協会夏目長門常務理事より依頼を受け2005年から口唇口蓋裂患者に対して海外で医療支援を行ってきました。2005年と2006年はベトナム社会主義共和国に、2007年からはモンゴル国に獨協医科大学病院単独チームとして毎年出かけております。口腔外科学講座前任教授の今井裕先生(現獨協医科大学特任教授)の強いリーダーシップでこのプロジェクトは推し進められており、私も協力させていただいておりました。今井裕先生は2014年3月で退職されましたため、夏目先生からも、今井先生からもこのプロジェクトの継続を指名され、微力ながら私が引き継がせていただくこととなりました。

本プロジェクトの実務担当者である越路千佳子先生と2015年のプロジェクトの打ち合わせを始めたのは2015年6月初めころです。まず、モンゴル母子病院口腔外科部長のアヤンガ先生にメールを書き、9月中旬に訪問した旨と、治療に何か必要な物品はありますかというやり取りがスタートしました。今回は私が責任者として初めてのプロジェクトなので、ひとまずウランバートルの母子病院だけでの治療ということで計画を進めました。例年9日間程度の遠征でしたが、今年はウランバートルでの治療なので、移動日を計算しなくてよく、合計5日間の活動で、着いた翌日の午前中に診察をして、午後から手術を始めるという提案をしました。

今回は口唇口蓋裂関連の手術のみではなく、腫瘍性疾患、顎変形症の手術もあれば、やりましょうということで準備し現地入りしましたが、結局手術は口唇口蓋裂関連のみでした。メンバーは口腔外科医：川又均、泉さや香、越路千佳子、麻酔医：白川賢宗、看護師：八木澤重毅の5名、別件でモンゴル入りする予定だった今井裕先生がスーパーバイザーとして同行していただきました。今回のプロジェクトで、日本チーム、モンゴルチーム合わせて21症例の診察、18症例の手術を行いました。例年より多めの手術ができたと思います。日程的に、かなり無理を言ったのに、快くお引き受けいただいた麻酔科の白川先生、看護師の八木澤君には感謝申し上げます。今年の手術は、越路先生にも、泉先生にも執刀してもらい、治療そのものも充実していたと思います。さらに、手術の機械、薬品等をすべて先方のものを



モンゴルの先生との合同オペ

お借りし施行できたことに大きな意味があると思っています。私は、まったく手術機械にはこだわりがなく、先の合ったマイクロピン付ピンセットとよく切れる鉋と、よく切れるメスがあれば、あとは何もいらぬというスタンスなのですが、麻酔の白川先生は大変だっただろうと推察しています。種々の薬に書かれているロシア語を何とか解説しても、微妙に効果は日本の薬とは違うみたいです。確かに止血用の20万倍アドレナリンの効きは悪かったです。

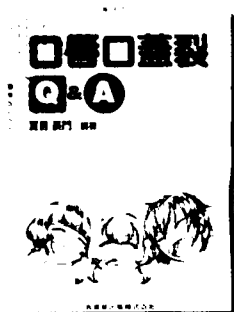
9月中旬だと、すごく寒くなることもあるのですが、今年は天候にも恵まれ、ウランバートルでのプロジェクトだったこともあるのでしょうか、誰一人体調を崩すことなく、手術もすべて無事終了し、安堵しております。また、これまでは入国時、移動時に、大量の薬品や機械を運んでおり、通関の際、入るときも出るときも止められて大変だったのですが、今年は、持ち込んだチタンプレートとスクリューを開けられて、これは何だとモンゴル語でまくしたてられただけでした。ちゃんとインボイスを作成し、通関するための手筈は整えてきたにもかかわらず、よくあることです。モンゴルの先生方が空港まで迎えに来てくれていて、説明してくれて事なきを得ました。このチタンプレートはモンゴルの先生方からリクエストがあった寄付予定の医療援助物品で、もし、没収されれば100万円程度の損失になるところでした。

これまでは、安全に手術を行うことを目的に、日本で使っている機材・薬品を、大量に持って行って、デリバリー手術を行っていました。現地の状況がわからなかった頃は仕方がないことですが、今後は、現地の歴史、文化、医療機材、薬品、医療スタッフの技術を見極めて、現地のスタイルで、我々がかつて学んだ診断・治療技術を移転することが重要なかもしれません。私自身、口唇口蓋裂の治療・手術は母校の徳島大学で、当時の吉田秀夫助教授（大阪大学第一口腔外科のご出身）の手ほどきを受け、獨協医科大学では今井先生の指導を受けておりましたが、どちらかといえば、口腔癌の診断治療を専門にしております。モンゴル母子病院の先生方の口唇口蓋裂治療の症例数は、我々の病院の比ではなく、症例数としては彼らのほうが圧倒的に多く経験しているのが事実です。お互いの知識・技術を吸収しあいながら、切磋琢磨できればと考えています。



プロジェクト終了し、黄任のウランバートルでの懇親会

書籍紹介「口唇口蓋裂Q&A」(医歯薬出版)

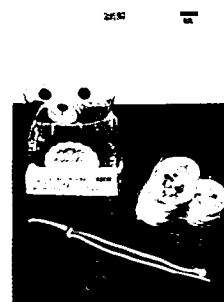


医療現場で長年にわたり患者様とともに歩んできた当協会の医師などが回答者となり、治療のうえで重要であるさまざまな問題140題にお答え致しました。

総頁数：184頁 / 2色
判型：B5判
発行年月：2015年7月
ISBN978-4-263-44443-6
価格：本体3,800円 + 税

★NPO法人夢工房の新商品

夢工房は名古屋市にあるNPO法人です (<http://www.yumekb.net/about.html>)。当協会夏目長門常務理事が担当する患者様が勤務されておられ、新商品を見せて頂きました。透明なプラスチックのクマの容器に、ひもとおしチップが入った可愛いセットの作品です。手と頭を使って、お子さんが沢山遊べるように、「ひもとおし、ちっぷおとし、えあわせ」が出来る玩具です。この夏に販売、予定販売価格は900円だそうです。夢工房は、難病や障害のある方々が木材を使った手作りの生活雑貨を心こめて製作・販売することで、困難があっても社会参加出来るよう支援しています。



第10回 国際口唇口蓋裂協会学術集会のご案内

2016年10月24日～28日、インド南部のチェンナイで第10回国際口唇口蓋裂協会学術集会が開催されます。24～25日はプレカンファレンスとして、ライブサージェリーを、そしてメインとなる学会は25～28日の日程で行います。世界各国から口唇口蓋裂治療に携わる様々な職種 of 専門家が一堂に会し、最先端の口唇口蓋裂治療について語りあいます。また、今回は、口唇口蓋裂治療に携わるアメリカの言語聴覚士のほとんどがバイブル的存在として読破している“Therapy Techniques for Cleft Palate Speech & Related Disorders”の著者である Dr. Karen J. Golding-KushnerによるVirtual Lectureも行われます。Dr. Golding-Kushner先生は世界的に有名な言語聴覚士です。様々な有益なプログラムが組まれている素晴らしい学術大会となっていますので、是非ともご参加ください。参加費は下表(1)の通りですが、参加費と宿泊費(5つ星ホテル)を合わせたお得なパッケージも表(2)のように準備してあります。詳細については、学術大会HPをご覧ください。 (<http://www.cleft2016icpf.com/>)

表(1) 参加費 ※\$ = 米ドル

参加区分	事前申し込み	現地申し込み
DELEGATE	\$ 450	\$ 550
STUDENT	\$ 350	\$ 450
ACCOMPANYING PERSON	\$ 100	\$ 100

表(2) パッケージ金額(一室ツイン利用の一人分価格) ※\$ = 米ドル

宿泊数	参加費&宿泊費	参加費&宿泊費 & Gala Dinner
3日	\$ 520	\$ 605
4日	\$ 590	\$ 675
5日	\$ 660	\$ 745

(会報担当：吉田)